



Photostud

THE ARIMA KINEN (THE GRAND PRIX)

第69回 有馬記念 (GI)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞500,000,000円 200,000,000円 130,000,000円 75,000,000円 50,000,000円
付加賞 3,402,000円 972,000円 486,000円



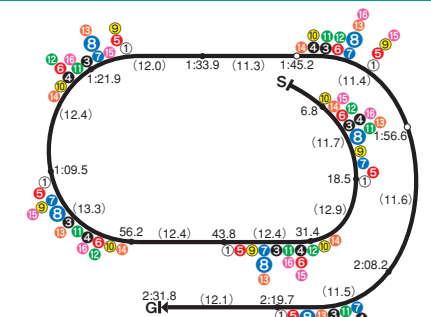
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、ファン投票および別に定める方法により選定された馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 3歳56⁺ 4歳以上58⁺、牝馬2⁺減

2024.12.22 中山 晴・良 芝2500m (国産) (指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧	レガレイラ	牝3	54	戸崎圭太	2:31.8	6-5-5-3	34.9	468(-4)	10.9⑤	木村哲也(美浦)	118
2	⑩	シャフリヤール	牡6	58	C.デムーロ	ハナ	10-9-5-5	35.0	458(-)	30.1⑩	藤原英昭(栗東)	121
3	①	ダノンデサイル	牡3	56	横山典弘	1½	1-1-1-1	35.4	520(-2)	4.0②	安田翔伍(栗東)	119
4	⑤	ベラジオオペラ	牡4	58	横山和生	¾	2-2-2-2	35.5	512(-2)	7.1③	上村洋行(栗東)	118
5	⑪	ジャスティンパレス	牡5	58	坂井瑠星	¾	9-9-11-10	35.1	468(±0)	10.9④	杉山靖紀(栗東)	117
6	③	アーバンシック	牡3	56	C.ルメール	アタマ	7-8-11-8	35.1	516(+6)	2.8①	武井 亮(美浦)	117
7	⑥	ローシャムパーク	牡5	58	T.マーカド	ハナ	12-11-9-8	35.2	506(-)	17.2⑦	田中博康(美浦)	117
8	⑦	スタンングローズ	牝5	56	R.ムーア	1	7-5-5-5	35.5	496(-2)	27.1⑨	高野友和(栗東)	111
9	④	ダノンベルーガ	牡5	58	松山弘平	クビ	15-15-13-13	34.9	496(+4)	122.4⑥	堀 宣行(美浦)	115
10	②	シュトルヴェ	騾5	58	鮫島克駿	½	12-11-9-10	35.5	478(±0)	108.1⑧	堀 宣行(美浦)	114
11	⑩	ブログノーシス	牡6	58	三浦皇成	アタマ	14-14-13-10	35.3	474(-)	16.4⑨	中内田充正(栗東)	114
12	④	ブローザホーン	牡5	58	菅原明良	3½	10-11-13-13	35.7	432(+2)	35.1⑪	吉岡辰弥(栗東)	109
13	⑨	ディーボンド	牡7	58	幸 英明	1	3-2-2-3	36.7	502(-14)	49.7⑫	大久保龍志(栗東)	107
14	⑦	スターズオンアース	牝5	56	川田将雅	2	3-5-5-13	36.7	498(-2)	17.6⑧	高柳瑞樹(美浦)	100
15	⑧	ハヤヤッコ	牡8	58	吉田 豊	アタマ	3-4-2-5	37.1	492(+12)	57.1⑬	国枝 栄(美浦)	104
取消	②	ドウデュース	牡5	58	武 豊						友道康夫(栗東)	

単勝⑧1,090円(5⁺%) 複勝⑧320円(5⁺%) ⑩540円(10⁺%) ①210円(2⁺%) 枠連④-⑥6,980円(25⁺%)
馬連⑧-⑩20,470円(49⁺%) ワイド⑧-⑩4,450円(48⁺%) ①-⑧720円(5⁺%) ①-⑩1,900円(24⁺%)
馬単⑧-⑩33,100円(86⁺%) 3連複①-⑧-⑩20,850円(70⁺%) 3連単⑧-⑩-①196,520円(548⁺%)
5重勝⑩④③①⑧2,287,110円(332票) 対象競走：中山9R／京都10R／中山10R／京都11R／中山11R



通過タイム：700m 900m 1100m 上り：800m 600m
43.8 - 56.2 - 1:09.5 46.6 - 35.2

アラカルト

- ・戸崎圭太騎手はジェントルドンナで制した14年に続く有馬記念2勝目。JRA重賞は24年7勝目、通算77勝目
- ・木村哲也調教師はイクイノックスで制した22年に続く有馬記念2勝目。JRA重賞は24年3勝目、通算31勝目
- ・スワーヴリチャード産駒はJRA重賞通算7勝目
- ・牝馬の勝利は20年クロノジェネシスに続く通算8回目。なお、3歳牝馬の勝利は1960年スターロツチ以来64年ぶり、通算2回目
- ・ドウデュースは疾病(右前肢跛行)のため出走取消
- ・非抽選馬 5頭(カラテ、ショウナンラプンタ、ニシノレヴナント、ホウオウビスケッツ、メイショウタバル)

レガレイラ Regaleira

牝 鹿毛 2021.4.12生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・(有)サンデーレーシング 美浦・木村哲也厩舎
馬名意味・ポルトガル中西部の都市シントラにある宮殿

ウインドインハーヘアIRE系 F2-I

スワーヴリチャード 栗毛 2014	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA
		アイリッシュダンス
	ピラミマUSA 黒鹿毛 2005	Unbridled's Song
		Career Collection
ロカ 鹿毛 2012	ハービンジャーGB 鹿毛 2006	Dansili
		Penang Pearl
	ランズエッジ 鹿毛 2006	ダンスインザダーク
		ウインドインハーヘアIRE

5代までのクロス：サンデーサイレンスUSA S3×M4 Lyphard S5×M5

INTERVIEW

佐藤洋輔 調教主任（ノーザンファーム早来）

チーム丸となってレースに臨みました

24年に入ってから歯がゆいレースが続いていましたが、レガレイラにさらに近いところにいる厩舎関係者や、ノーザンファーム天栄スタッフはなおさら悔しかったと思います。その中でまさにチーム丸となって、最高の状態でレースに臨んだことがこの快挙に繋がりました。25年春には骨折による休養から復帰しますが、その時にはさらに強い姿を見せてほしいです。

S.Naka



前年のホープフルSで牝馬による初の戴冠を果たした本馬は迎えた3歳の春、皐月賞(6着)、ダービー(5着)へ駒を進めた。牝馬路線に矛先を転じた秋のローズS、エリザベス女王杯も5着に敗れたが、キャリアを重ねつつ、磨きをかけてきた地方が年の瀬の大一番で大きく開花。従来の「追い込み一手」のイメージを払拭する走り、歴史的といえる勝利を再び掴み取った。

父スワーヴリチャード

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首19戦6勝(ジャパンC^{G1}、大阪杯^{G1}、金鯱賞^{G2}、アルゼンチン共和国杯^{G2}、共同通信杯^{G3}、日本ダービー^{G1} 2着、東京スポーツ杯2歳S^{G3} 2着、ジャパンC^{G1} 3着、ドバイシーマクラシック・首^{G1} 3着、宝塚記念^{G1} 3着、安田記念^{G1} 3着)、20年から供用〔代表産駒〕レガレイラ(本馬)、アーバンシク(後出)、コラソソビート(京王杯2歳S^{G3}、フィリーズレビュー^{G2} 2着、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1} 3着)、スウィーブフィート(チューリップ賞^{G3})、アドマイヤベール(フローラS^{G3})

母ロカ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央6戦1勝(忘れな草賞^O 2着、クイーンC^{G3} 3着)

ロックオブエッジズ(18 牡父スクリーンヒーロー)中央5戦0勝、地方4戦1勝

ドゥラドレース(19 牡父ドゥラメンテ)中央8戦4勝(江の島S、藻岩山特別、セントポリア賞、毎日杯^{G3} 3着、菊花賞^{G1} 4着) 〇
(20 牡父ジャスタウェイ)

レガレイラ 本馬(21 牝父スワーヴリチャード)中央8戦3勝(有馬記念^{G1}、ホープフルS^{G1}、アイビーS・L3着) 獲得総賞金634,381,000円

セラドピラル(22 牝父シュヴァルグラン)中央2戦0勝 〇

(23 牝父インディチャンプ)

(24 牝父リオンディーズ)

祖母ランズエッジ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

ロカ(12 前出)

エッジースタイル(13 牝父ハービンジャーGB)中央3勝(都井岬特別、アー

バンシク 〇(菊花賞^{G1}、セントライト記念^{G2})の母

ブルークランズ(14 牝父ルーラーシップ)中央3勝(北大路特別、ステレン

ボッシュ 〇(桜花賞^{G1}、オークス^{G1} 2着、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1} 2着、秋華賞^{G1} 3着、香港ヴァーズ^{G1} 3着)の母

ヴァルコス(17 牝父ノヴェリストIRE)中央2勝(ゆきやなぎ賞、青葉賞^{G2} 2着)

曾祖母ウインドインハーヘアIRE

愛、英、独3勝(アラルポカル・独^{G1}、プリティポリーS・英L、フィリーズトライアルS・英L)、99年輸入、12年用途変更、ディーフィンバウト(日本ダービー^{G1}、ジャパンC^{G1}、有馬記念^{G1}、皐月賞^{G1}、菊花賞^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1}、日本リーディングサイヤー)、ブラックタイド(スプリングS^{G3}、種牡馬)の母

3歳牝馬が64年ぶりの歴史的快挙達成

達成すれば20年ぶりの快挙となる「秋の古馬「冠制覇」」に王手をかけ、引退レースともなる一戦に臨むはずだったドウデュースが枠順確定後に右前肢跛行を発症し、出走取消。一転して混戦ムードに包まれた年の瀬のグランプリは手に汗握るスリリングな攻防、そして64年ぶりの快挙に沸いた。3歳年上のダービー馬に競り勝ち、値打ちの高い白星を掴んだのは感星候補の1頭と目されていたレガレイラ。ファン投票で出走権を得た前年の2歳中距離女王が、1960年のスターロツチ以来となる「3歳牝馬による有馬記念制覇」をやつてのけた。

双壁と目されたのは3歳の2頭、菊

花賞馬アーバンシクとダービー馬ダノンサイル。このうち、最内枠を引いたダノンサイルが先手を奪ったレースはゆったりとした流れで進んだ。先行力も評価され、3番人気の支持を集めた大阪杯の覇者ベラジオオペラは2番手を追走。スタートを決め、常になく出足もついたレガレイラと戸崎圭太騎手のコンビは5、6番手につけ、ゲートで少し立ち遅れたものの、すぐにポジションを挽回したアーバンシクは直後のインで末脚を温存した。

スローペースに持ち込んだダノンサイルは残り1000m地点から11秒台のラップを連発。ついてきた好位勢を突き放し、押し切りにかかる。しかし直線の急坂を駆け上がった脚勢が鈍ったところへ、馬群の内で脚を溜めていたレガレイラと外々を回って進出してきたシャフリヤールが襲い掛かり、同じ勝負服の2頭が鼻面を並べてゴール。レース史上9回目のハナ差決着の軍配はレガレイラにあがった。